

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470700214		
法人名	医療法人永楓会		
事業所名	グループホーム千怒の杜 かえで		
所在地	大分県津久見市大字千怒7389		
自己評価作成日	平成24年11月6日	評価結果市町村受理日	平成25年2月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設内に関じこもらない生活支援に努めており、散歩や買い物、ドライブや外食等、利用者が楽しめるように、また、一人ひとりの希望にそえるような外出支援に力を入れている。</p> <p>医療事業所と密に連携を図り、安心した医療を受ける事ができ、ターミナルケアもできている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の9割が看取り介護を受けている。家族から看取り後、感謝の言葉もあり、全職員が利用者、家族の思いに添えることを目標に「遂の住処」の理念を実践している。 ・お菓子一つでも一緒に買い物に行くなど、本人の意向を尊重した支援が日々行われている。 ・管理者、職員のチームワークがよく、記録物の工夫もあり、情報の共有ができています。 ・排泄状況に合わせ、夜間もトイレ誘導を行うなど不快感のない排泄介助が行われている。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

評価機関 : 福祉サービス評価センターおおいた

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示しており、特に『安心して終末期を迎えられる』ように努力して実践している。	各ユニットの玄関に「遂の住処(ついのすみか)」の理念を掲げている。職員、家族共に共有している。利用者の9割が事業所内で看取り介護を受けるなど、理念が定着していて実践されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の行事や防犯パトロールに参加している。また地域の清掃活動等の行事にも参加しており、当施設でのバーベキュー等への参加も促しており交流はできている。	下校時に児童が地域の人と一緒に防犯パトロールやごみ拾いをしたり、児童が遊びや水飲みに立ち寄りたりしている。地域の方が花を届けてくれたり、事業所の行事に参加したり、職員が地域の清掃活動に参加するなど、自然な付き合いができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催しているが、地域へ貢献できているかは分からない。毎日の散歩や地域(小学校も)の行事に参加する事で少しずつは理解してくれていると思う。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回開催している。会議での提案事項等があれば、職員間の会議にて検討して実施している。	2ヶ月に1回、地域の代表などの参加を得て実施している。カラオケ教室や、避難訓練時の利用者の名札などの提案が出され、できることから実践している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	回数は多くないが、文章や電話で連絡を密に取り、運営推進会議にも参加してもらい協力関係を築いている。	市の担当者が運営推進会議の委員でもあり、また管理者が地域包括ケア会議の準備会の会長を務めており、普段から相談をしたり、交流がある。事業所が福祉避難場所の依頼を受けるなど協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設のマニュアルがあり、勉強会を開催し正しく理解しており、職員間で確認しながら業務をしている。また、転倒防止等の危険性のある場合には、家族の許可を得てセンサー等を設置している。	拘束の必要性がある場合は皆で話し合いを行い家族にも了解を得ている。定期的に会議の場で話し合い見直しを行っている。マンネリ化しないように年1回、研修会を行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し正しく理解しており、入浴時や更衣時等に確認しながら業務をしている。また、どのような行為が虐待にあたるのか、日々、職員間で話し合い、身体だけでなく声かけ等にも注意している。	/	/

評価機関：福祉サービス評価センターおおいた

事業者名：グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、管理者だけでなく職員も少しずつ理解できてきている。また、必要な入居者や入居者家族に提案する事も活用して支援している。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を口頭で説明している。また、契約時以外でも必要に応じて説明等を行い理解・納得を図っている。			
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族も参加できる行事を開催して、普段よりも意見が出やすいようにして意見や要望等を聞く機会を設けて反映している。また、意見箱の設置やアンケートを取る等も実施しているが、意見箱での意見はあまり無い。	家族の面会時に積極的に話を聞いたり、アンケート調査を行ったり、月1回、全家族へ家族通信を送ったり、メールで連絡するなど、積極的に意見を聞く機会を設けている。出された意見はサービスに反映している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員全体での会議や、正社員間での会議を開催して、意見や提案を聞く機会を設けている。	ユニット会議や全体会議でパートも含め全職員が参加して意見を出し合っている。管理者から改善点などについて職員に問いかけるなど、管理者側が普段から積極的に聞く機会を設けている。意見も反映されている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の個人面談や、月1回の会議等を開催する事で職場環境・条件の整備に努めている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの力量は把握できており法人内での研修(勉強会)があるが、法人外の研修は少なく、研修の案内をしても参加者が少ない。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や管理者間での同業者との交流はあるが、職員間での交流の機会は少ない。			

評価機関：福祉サービス評価センターおおいた

事業者名：グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴等を家族にアンケートを取り、本人をより深く知り、そこから本人とコミュニケーションを取り、安心して生活をできるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の不安や今後の支援、また、医療やターミナル等についても聞く機会を設けて一緒に考えており、関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話す機会を多く作り、支援を見極めており、その他のサービス(訪問マッサージ等)利用も検討している。また必要に応じて「お試し入居」等も実施して、必要な支援を見極める事もある。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に自分達より年上である事を前提に、一緒に食事の準備(野菜の皮むき等)や洗濯物等を実施している。また、昔の出来事(戦時中等)を教えもらったり、逆に現在の事を教えたりと家庭的な雰囲気作りにも努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気になる事等を気軽に相談できるような関係作りに努めている。また、必要な支援を見極めて、外出や面会時の介助、行事等に参加してもらい、家族と職員が一緒に支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店(理容・美容院や洋服屋等)をできる限り変えずに利用できるように努めている。また、知人等の面会がいつでもできるようにも努めている。	馴染みの店に買い物に行ったり、週3回のお墓参りや、買い物途中で自宅を見に行ったり、檀家の法要に連れて行くなど、日頃から利用者の希望に添った支援により、関係継続をしている。知人も訪ねてきている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩や体操、洗濯物や手作業等を職員が間に入り一緒に行えるようにしている。また、利用者同士の関係を把握して、必要が無い時にはあまり関与せずに見守り、自分達で関係や距離感を作れるようにも支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も行事の案内を連絡しているが、あまり返答は無い。また、相談等も少ないがあれば、その都度対応している。		

評価機関：福祉サービス評価センターおおいた

事業者名：グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のさりげない会話の中や、会議の場で希望や意向の把握に努めている。また、できる限り、外出等にも対応している。	日々の会話や関わりの中で、表情や反応をみたり、家族に面会時に聞くなど、意向の把握に努めている。日々の介護記録簿に残し、全体会議で話し合い職員で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からだけでなく、入居時等に家族からも確認して把握に努めており、会議の場でも確認している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議で職員全員でアセスメントを行う等、把握に努めている。また、毎日の記録や診察の記録、その他の申し送りの内容を各業務前に確認するようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議の場で、介護計画について話し合っ反映している。また、家族の面会時や主治医の往診時にも話し合っている。	気づきなどを介護記録に記入し、毎月のユニット会議で話し合っている。モニタリングは3ヶ月ごとに全体会議で行い、必要に応じて見直しをしている。介護計画書は家族の面会時に行い、確認を遠方の場合は電話や郵送で行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録(1日の出来事や介護計画について)を1人ではなく勤務者全員で記入するようにしている。また、毎月の会議の場でも話し合っているが、記入者や意見者が偏っている様にも感じられる。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出や外泊等にも家族と連絡を取る等して対応している。また、介護保険に含まれないサービス(訪問マッサージ等)を利用できるようにも取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護的での地域資源の利用は少なく、今後も把握に努める必要があるが、暮らしを楽しむ資源としては、移動図書館や地域の方が来設して踊りの披露等がある。		

事業者名：グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	市内は職員が送迎して受診でき、かかりつけ医には、月2回の往診をお願いしている。また、往診日には情報提供を行っており連携を図り、適切に医療が受けられるように支援している。	本人希望のかかりつけ医になっていて、往診をしてくれる。家族の状況に応じて職員が受診の送迎をしている。受診、往診時は事前に情報提供書を作成し、医師にFAXしている。受診結果は「診察記録簿」があり情報の共有ができています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や週1回の看護師の来設時に情報を伝えて相談している。また、気付いた事があれば、その都度、電話連絡等で相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係作りは、あまりできていないと思うが、入院前には必ず情報提供を行っている。入院中も家族だけに任せずに情報交換を行い、できるだけ早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や状況に合わせて、話し合いの場を設けており、主治医と家族だけに任せずに職員(管理者)が間に入り、終末期に向けた方針を検討して支援している。	「重度化に関する事前確認書」が文書化されていて、状況に応じて話し合っている。看取りが必要になった場合、その都度、個別の手順書を作成している。看取り介護は管理者も含め職員全員が認識している。家族も付き添っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修の場で勉強してマニュアルも掲示しており知識は向上しているが、実践力はまだ十分ではないと思われる。今後も訓練が必要。緊急時には主治医等の病院関係へすぐに連絡ができるように掲示している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、風水害と火災訓練を実施している。また、消防署から訓練時に来てもらい、反省点等も聞く機会があり避難できる方法が身につけている。地域の参加も促しているが、平日に実施する為に協力体制が築けているかは分からない。	年2回、夜間を想定した訓練を行っている。消防署や地域部会長の参加もある。津波などの地域の避難場所の確認は職員が行い、万々に備えている。非常食用の備蓄もある。	

評価機関：福祉サービス評価センターおおいた

事業者名：グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者では無く年上(目上)の方と言う事を忘れずに接している。排泄の失敗や訪室時のノック等、職員間で注意しながら業務をしているが、時には『声のかけ方や表情等が上手くできていないのではないか』と思われる事もある。	配慮した声掛けに努めているが、気になる時はお互いにその都度注意しあったり、日々のミーティングで話し合っている。マンネリ化しないように勉強会で事例検討を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の判断力に合わせて、自己決定をできるように働きかけている。また、困難な方には二者択一等で、できる限り行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会議で利用者一人ひとりの生活リズムを把握して、できる限りそえるように業務に組みこむように行っており、外出や買い物、カラオケや手作業等を無理には誘わずに実施している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	能力的に困難な方には、職員が選んでしまう事もあるが、二者択一等で選べるようにしている。また、スカーフや小物、化粧品等にも気を使うように心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは職員が行っているが、野菜や果物の皮むき、テーブル拭きや食器洗い等、各利用所の能力に合わせて職員と一緒にしている。	朝、夕は職員が手作りし、検食として、職員が一人一緒に食べている。嫌いなものは代替食を出すなど配慮している。おやつは一緒に作る事もある。誕生日には本人の希望により好みのものを一緒に作ったり、外注したりし、提供している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の摂取量は把握できているが、必要に応じて記録をしたり、栄養指導をしてもらっている。また、会議にて職員間でも確認をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な利用者には、自立支援ができていて確認もできているが、介助の必要が無い方の確認があまりできていない。		

事業者名：グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な利用者の排泄パターンを会議の場で確認して、トイレ誘導等を行い自立にむけた支援を行っているが、排泄の失敗等が減らない事もある。	排泄チェック表で個人の排泄パターンを把握し、夜間もトイレ誘導を行っている。その結果、オムツ利用者が減り、布パンツに変わるなど、排泄に向けての自立支援が行われている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り服薬に頼らないように、毎朝の牛乳やバナナ、おやつヨーグルト等、飲食物に気を付けている。乳製品等が好みでない利用者への工夫が今後の課題である。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り利用者の希望にそっているが、どうしても時間帯や日時を職員で決めてしまう事がある。	入浴日は毎日、本人の意向や気分に添いながら、週3回の実施している。毎日入浴する利用者もいる。長年の生活習慣で入浴を拒否する利用者もいるが、週1回の実施している。2回は清拭で対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や昼寝等をできる限り利用者に合わせており、気持ち良く眠れるようにしている。また、睡眠パターンや環境作りにも努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があればその都度、記録に残して職員に知らせている。また、すぐに分かるように各利用者の服薬情報をファイルにとじている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週に1回は外出して気分転換を図れるようにしている。また、利用者全員ではないが、能力に合わせて洗濯物、新聞取り、食器洗い等負担にならない程度に役割を作り支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や散髪等、本人の希望に沿った外出支援を行っており、年に2回は遠方への外出や外食等も行い家族の参加も促しているが、家族や利用者からの提案が少ないため、今後も本人の希望を把握する必要がある。	散歩は日課となっている。個人の希望で墓参りや檀家の集まり、買い物に出かけている。週1回のドライブや、四季折々の花見、観光地に出掛けるなど外出の機会を設けている。盆、正月以外にも家族の協力で外出したり、外泊するなどしている。家族の支援も行われている。	

事業者名：グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各利用者の能力に合わせて、できる限り自己管理ができるように支援している。困難な方には家族から預かり、自由に使えるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持や、希望があれば電話を使用できるようにしている。手紙のやり取りは少ないので、今後できるように支援していきたい。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられるように季節に合わせた花や飾り等している。また、水槽でメダカを育てたり、イベント時の写真等を掲示もしている。利用者に合わせて光を調節したり、テレビの音量や番組を変える等の工夫もしている。	共用空間に障子戸の和室や暖炉の設置をしたり、季節の花を飾っている。中庭の池や、紅葉など季節の樹木を眺めることができる。廊下にソファを置くなど、居心地良く過ごす為の工夫がみられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席、リビングや和室等、利用者の希望で過ごせるようにしている。また、利用者間で気の合う・合わないがあるので、職員が間に入る事やお互いの目に入らないように仕切りを立てる等の工夫もしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持って来てもらい、写真や花を飾る等、一人ひとりに合わせている。また、転倒等にも気を付けた動線作りにも心がけている。	仏壇や位牌、テレビ、家族の写真、趣味の絵はがきを飾ったり、使い慣れた衣装ケースや毛布など、馴染みのものを活かし、落ち着いて過ごせる居室になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングには大きなカレンダーや時計を設置。トイレや部屋に貼り紙等をして目印にして、その他手すりの追加や車イスの置き場所等にも注意して動線の妨げにならないように工夫している。		

事業者名：グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

評価機関：福祉サービス評価センターおおいた

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470700214		
法人名	医療法人 永楓会		
事業所名	グループホーム千怒の杜 けやき		
所在地	大分県津久見市大字7389番地		
自己評価作成日	平成24年11月6日	評価結果市町村受理日	平成25年2月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・外出日を設け、定期的に気分転換が出来る様に、地域の行事や、他市町村まで足を伸ばし景色を楽しんだり、賑わいを肌で感じる事が出来る様に取り組んでいる。 ・かかりつけ医と密な連携を取る事で、安心して生活出来る様に、また安心して終末期を迎えられるような体制を取ることが出来ており、定期的に家族本人の意向を確認する事で、家族も安心されている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

かえり同様

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先に理念を掲示し、職員の心得を、朝礼後に読み上げ業務に携わる事で、認知症ケアに対する心構えを共有している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週水曜日に地域の防犯パトロールに参加し、地域の小学児童の下校を見守っている。地域の清掃にも参加し、年一回のBBQへ地域の方を招いている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症対応の施設という事で、事業所から地域の方に何か役に立てる事があればと運営推進会議の場で尋ねるが、地域の方からの積極的な意見はかえってきていない。また、小学校の行事には毎年参加している。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた内容を職員間で検討し実施出来る事は実践して行きたいと考えている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の会議等に参加し、運営推進会議には行政からも出席してもらっており、良い関係が築けている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施し、どういう関わりが、拘束に相当するか確認し、業務に取り組んでいる。今後は、日頃の声かけが拘束にあてはまらないかを考えながら取り組んでいこうと、日頃から促している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、拘束と同様に日頃の声かけに対しても、虐待に含まれる内容もある事を注意して業務に取り組んでもらっている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個々の知識を深める為、施設内研修を実施し理解を深める事が出来る様に促している。また、必要と思われる入居者、家族に対し提案し制度の利用に繋がった事もある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容を説明した後にすぐにサインを頂くのではなく、疑問点解消の為、熟読できる時間を設け、再度説明できる体制をとっており、納得頂いている。また、可能な限り利用者も同席頂けるように心掛けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、行事の際に出来るだけ意見や要望を聞き出せる様に関わっている。意見箱を設置しているが、活用できていない。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している全体会議の場で業務に関する意見を検討できる様に時間を設けている。また、ユニット会議ではより深く業務に関する話が出来る環境を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談において一人ひとりの事情を出来るだけ把握し、働きやすい環境作りに努めている。また、資格取得など、意欲を労働条件に反映出来る体制をとっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の介護力を把握したうえで、助言を随時行っている。施設内研修は毎月実施し、職員が勉強出来る様に、順番で講師を担当する取り組みをしている。外部の研修が少なく今後の検討項目の一つである。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケア会議において、施設職員の代表が2カ月に1回集まり、テーマのもと、情報交換が出来ている。また、他GHの管理者と話す機会もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族に利用者の生活に関するアンケートにて、事前情報を得て、利用者とのコミュニケーションを取れる様にし、早く信頼関係が持てる様に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの意見を聴く機会をけ持つように心掛けており、医療と介護の方向性を入居時から事前に確認し、家族の要望を職員間で把握できる様にしている。方向性の確認は必要時に再度確認する様にしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった段階で、出来るだけ多くの情報収集に努め、他サービスの利用を紹介し、相談者の負担の軽減が出来る様に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に出来る家事仕事(食器洗い、洗濯物干し、たたみ)を職員と一緒にやる事で、役割を意識してもらい、生活を感じる事が出来ている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の様子を記したものを、毎月送っている。必要に応じて、病院受診等家族にも協力してもらい、共に支援している。また、外泊等の促しも、状況を見て行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店など、入居後にも通えるように、把握しこちらから声かけを行い積極的に利用してもらうことが出来るように、支援している。(美容室など)		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	あまり他者と関わりを持たない方でも、洗濯ものたたみや広告折などを一緒にやる事で関わりが持てる様に支援している。また、利用者が自分から関わりを持ったり、距離を保つ事が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対象者が退去した後でも、行事の案内を送り関係が切れない様に取り組んでいる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活で利用者の思いをくみ取れる様に努め、職員間で何を希望しているのか把握し、対応できる様に取り組んでいる。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族の方に家族アンケートに協力頂き、生活環境などの情報収集に努めている。また、日常生活での会話からも引き出せるように、努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活において、利用者の気になる事等、ユニット会議において話し合い、把握に努めている。日々の様子は日誌にて確認し、診察記録からも心身の状況を把握している様にしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議の場でカンファレンスを行っているが、事前に職員より意見が出やすい様に確認をしてもらっている。家族の面会時にも意見を求める事があり参考になっている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を介護記録に記し、状況を職員全員で把握できる様にしており、更新の際には意見を求める様にしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出・外泊の希望にも柔軟に対応が出来る様に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売、移動図書館の来設がある。外出イベントの際に、利用者に丁度いい量の弁当を作ってくれる馴染みの弁当屋があり、カラオケの好きな利用者が利用できるカラオケ店もあり楽しみの一つとなっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診を受けており、心身の様子をを情報提供書にて事前に伝える事で、往診がスムーズに出来る様に工夫している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体となるクリニックに毎朝、前日の様子を報告しており、必要であれば、受診・往診の指示を仰いでいる。週1回正看護師の来設があり健康チェックがあり、その際にも気になる方の相談をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際に情報提供を行い、入院中のケアに役立ててもらっている。病院関係者とのコミュニケーションは十分に取れており、認知症状の進行が顕著に考えられる場合は、早期の退院が出来るようにしており、早期退院の実績もある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際に、終末期を踏まえ、本人・家族の意向を把握し、かかりつけ医に報告をしている。身体状況が変化した際に、再度家族の意向を確認している。必要であれば、かかりつけ医にも同席してもらっている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し急変時に備えている。研修会も実施し手順等は理解できているが、実践経験が少ない分、実践力は不十分と思われる。緊急時の連絡方法を掲示している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・風水害避難訓練を定期的に行い全職員が避難誘導出来る様に、夜間の火事を想定し避難誘導は一人で実施し反省点を全員で確認している。地域の協力を得るために、地区部長に連絡する体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に念頭に置き、接するように心がけている。排泄の失敗などは、他利用者に気付かれない様に対応しプライバシーを守れる様に注意している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で自己決定できる事は、時間がかかっても自分で選んでもらっている。(入浴後の衣類等)		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は基本となる時間は設定しているが、入居者のその日の気分、体調に合わせて提供時間を柔軟に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際にはおしゃれ着を着る様に支援し、化粧を促している。自分で出来ない利用者には職員が行う事で支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握し、出来る範囲で個別のメニューを作成している。食事は職員が同じテーブルで食し食事の時間が楽しくなる様に支援している。食器洗い、下膳を手伝ってくれる利用者もいる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて水分摂取量と食事摂取量を記録している。食事の時間に離床出来ない利用者には、時間をずらし、食してもらえるように支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に出来るだけ自力で行う様に促し、仕上げを職員が行う様にしている。また、夜間に義歯を洗浄液に浸け清潔保持に努めている。自分で歯磨きを行う方の確認が難しく感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導の必要な利用者の排泄間隔を把握しトイレに誘っている。また、排尿のサインを見逃さない様に観察しトイレに誘っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳・バナナ、おやつでは、ヨーグルトを定期的に食し排便を促している。排便の有無を毎日確認し必要であれば、薬を使用している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	透析の関係から入浴日を決められている方と、こちらの都合で入浴日を固定させてもらっている方もいるが、基本毎日入浴の準備は出来ている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調、体力を把握し夜間の睡眠に影響がない様な時間部屋で休んでもらっている。自室で休むのを好まない方は、ソファへ移る等安心して過せるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についての情報は書面にてファイルしておりいつ服薬内容に変更などいつ振り返ってもすぐに分かるように記録している。また経過観察をし、かかりつけ医には情報提供書にて報告出来るようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持てる利用者に関しては、食器洗い、テーブル拭き、洗濯物干し等、職員と一緒に実施している。また、負担にならない様に観察し、気分転換で週に1回は外出できる様に努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用以前から行っていた墓参りに月に3回出かける様に支援したり、パーマなど希望があれば、外出できる様に支援している。外出イベントにて、希望を取り、出かける事が出来る様にしている。		

事業者名: グループホーム 千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本は事務室の金庫に保管しているが、金銭管理能力に応じて、お小遣い程度の所持での自己管理を可能にしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば電話をとりついでいる。手紙が家族から届くと、いつも目に届くところに飾り、いつでも読んでもらう事が出来る様に工夫をしている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節によつての飾りを利用者と一緒で作成しそれをリビング、ローカに飾っている。また、イベントの写真や日常生活の写真を飾る事により、生活感を感じる事が出来る様にしている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングではくつろぐ事の出来る場所を分けて確保しており、一人でゆっくり出来る時間を持てる様にしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたタンスや布団などを持ち込んでもらい、家族・本人様に置き場を相談しながら決めて行き、居心地良く過ごすことが出来るよう支援している。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の能力に合わせ、ローカ、扉に印をつけトイレや部屋を、分りやすく工夫している。その時その時の身体状況に合わせ、居室で転倒しない様に動線を把握し、家具の設置を検討している。</p>		